

令和4年度 第1回松本市教育文化センター運営委員会 会議録

1 日時

令和4年8月3日（水）午前10時～正午

2 場所

教育文化センター1階 講義室

3 出席者

- (1) 委員 澤柿会長、松田職務代理、阪口委員、坂口委員、原委員、百瀬（英）委員、百瀬（淳）委員、木下委員（小幡委員は欠席）
- (2) 事務局 白井教育政策課長、高橋教育文化センター所長、一ノ瀬科学博物館長、小林指導主事、上條指導主事、望月主任

4 内容

- (1) 開会
- (2) 教育政策課長あいさつ
- (3) 委員等紹介

運営委員会規則を一部改正し、小学校長会と中学校長会からそれぞれ委員を選出すること、新たに教育委員会が必要と認める者という区分が加わったこと、委員数が9名から10名になったことを説明

(4) 会議事項

ア 教育文化センターの概要

施設の概要、建物内各フロアの内容、令和3年度に里山辺地区地域づくりセンター、公民館等が移転となり職員体制が変更となったことを説明

イ 令和3年度決算

新型コロナウイルス対策として事業を中止するのではなく、感染予防対策をとった上での実施や実施日の延期等の柔軟な対応をしたため、令和2年度に比べ利用者数等は増加したことを説明

ウ 令和4年度主要事業について

(ア) サイエンス、ICT・プログラミング、天文、プラネタリウム関係の各種講座や教職員研修について説明

(イ) アルプスタディ（教文学習）は事前事後学習のサポートや教職員研修としての側面も持たせ、単なる校外学習ではなく、教職員も学ぶ場としても活用している

(ウ) 令和3年度に信州大学全学教育機構と連携・協力の覚書を締結し、今年度はサイエンスセミナー等の連携事業を実施している

【質問や意見等】

- ・ 新聞記事等で上高地の花崗岩やビオトープに関する記事を拝見した。内容が進化し、事業の幅も広がっている。コロナ禍において、参加人数が増加傾向にある点も、建物は古い学習内容が人々の興味関心を引くものだからと思う。

- ・ 子どもの教育の公平性として、アルプスタディを続けていただくのは大変ありがたい。松本の子どもが平等に松本市の教育の恩恵を受けられるのは重要なこと。主要な活動の一つとして、今後も継続をしてほしい。
- ・ 児童、生徒が教文センターへ行って学習する意義があり、内容も工夫されている。プログラミングは時代とともに学習内容もすぐ変わるの、毎年見直ししながら進めてほしい。
- ・ 昨年度の運営委員会において、三澤委員からの広報を充実させるように意見があったが、今年度はその点も改善されている。また、様々な団体や大学との連携も強まり、昨年度よりもさらに進化した学習になっていると思う。
- ・ アルプスタディにまだ欠けているものは、教職員研修だと思う。子どもだけでなく、教職員自らが学ぶという姿勢があると、より一層良い。教職員に対してどのようにアクションをおこすのかが大事。今は教職員や児童、生徒は、提示するものを受動的に学んでいると思う。
- ・ 児童、生徒が自ら学びたいと思うものを把握するためには、アンケートが大切である。単に面白かった、何が楽しかったという感想よりも、自分にとって次の学びを考えるきっかけとなるよう、次は何を学びたいかを質問すると良い。
- ・ SBCラジオの子どもたちの作文を紹介するコーナーで教文センターでのプラネタリウム体験について書いた作文が取り上げられた。内容としては、私たちの学校から見た星空が印象に残っているといったものだった。
- ・ 今の時代にも教育を受けられない貧困家庭は存在する。小中学生が平等にこの施設で一日教育を受けられる機会が作られているのは素晴らしい。無くならないことを願っている。
- ・ 子どもや教職員の方たちには、星空観測等において、今この瞬間に起きていることを観察する重要さを考えていただきたいと思っている。プラネタリウムを更新し、すごい物になっているが、実際の空とは違う所もある。本物を見せる取り組みを、これからも続けてほしい。
- ・ 今年はプラネタリウム関連事業として、ちょこっとプラネタリウムの親子、ベビー、大人、スタディ等があり、教員向けに勤務時間内の夕方ここへ来て学べるシステムも整えている。子どもや大人が来て一緒に学ぶ、講師の方から先生が教えてもらえる等の、学校教育ではできない部分をこのセンターで行えることは、松本において地域ぐるみで人材を育てるシステムの中核になっていく。

エ 教育文化センター再整備事業について

(ア) 再整備事業の概要及び経過を説明

(イ) コンセプトイメージ案、ゾーニング案、事業構想等を説明

【質問や意見等】

- ・ ゾーニングを見ると、資料室がこれだけしかなくて大丈夫なのか。物を展示、保存して後世に伝えることも大切な概念である。
- ・ 教材研究室や教材の準備・材料保管スペースが無ければ事業を進める上で支障が生じる。旧福祉ひろばの建物を教材研究や材料置き場、資料室等で使用することはできないか。

⇒ 限られたスペースの中でどれだけの機能を持たせるのかという視点において、資料の保存については市全体としても課題である。他施設とも連携しながら検討していきたい。もう一つは事業のボリュームについて、どれだけの資料が必要なかが把握できていないので、今後しっかりと検討したい。

- ・ 交流スペースに来た小さい子ども連れや貸館利用者が飲食できるスペースを作ってほしい。
- ・ 展示物や掲示物を張るスペース等も必要である。現在も掲示物や、学校の花壇の写真を廊下等に展示している。壁面はプロジェクター等の機器の演出に必要なだが、物を展示するスペース、壁面を確保すると良い。
- ・ ギャラリー、コラボスペースについて企業や大学と提携しながら進めれば、内容も更新されて良いと思う。ただ、古くても面白い物もあるので、その点もぜひ検討を願う。
- ・ 多くの博物館や水族館では物に触って体感する学びをやっている。この施設も単なる展示でなく、触れる物があつた方が良いと思う。また、先日リニューアルした長岡市の博物館行ってみたが、物の展示だけでなくディスプレイを使った展示が多く、内容を更新していくことを考えていると思った。スマートフォンを使い自分がデータを取り出して見るといった仕掛けもある。
- ・ 壁をとったり、テラスを増設した場合、実際にできるのか。古い建物なので構造的に心配である。
- ・ 松本市教育会の立場から、先生方にとって教育文化センターで会議や活動、研修ができるのはとても有難いこと。先生方がやりたいと思うことが子どもたちに還元される。ここで体験した事を学校に帰って子どもと一緒にやりたいと思えるような、教員の前向きな気持ちを培っていただける場でもあると思う。この構想を見てワクワクするような施設になると感じた。
- ・ 教育会には科学に関わるものや社会に関わるもの等、様々な同好会がある。垣根を越えて集まり研修することを考えると、ここが学びのハブとなり別の機関とも繋がれて教員同士が研修できるとか、博物館と繋がって社会の資料を引き出せて研修できるとか、他機関との繋がりを更に充実させながら構想をしていただくと、教職員の幅広い学びの場となり有難い。

(5) 閉会